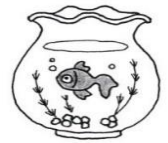


大人の不機嫌は子供をいい子にさせる？



「大人の不機嫌は子供をいい子にさせる」と、精神科認定看護師・**こど看**さんは精神科病棟での臨床経験から述べています。

それは、大人が不機嫌になると子供は自然といい子になるということではなく「大人が不機嫌になると子供はいい子にならざるを得ない」という意味なのです。

例えば、子供が不機嫌な様子で床にものを投げつけたのを見たとき、大人はどのように反応するでしょうか？「友達とけんかしたのかな？」と、子供が不機嫌になった理由を考えたり、投げつける行為をたしなめたりするはずです。

では、大人と子供の立場が逆の場面であればどうでしょう。もし、大人が不機嫌な様子で床にものを投げつけたとしたら、子供はどうするのでしょうか。子供は大人と違い、真っ先に「自分が何か悪い事をしたんじゃないか？」

と思い込んでしまうことが多いのです。そして、大人を怒らせないように行動を抑制しようとし、この反応の違いは心の成熟度の違いによるものです。



大人は「私は私、あなたはあなた」と、自他の境界の区別をして、目の前の他人の

不機嫌を自分と区別して処理することができますが、子供は大人の不機嫌があたかも自分の問題かのように思い込み、不安や恐怖を感じてしまうことがあります。そうすると嫌な状況を回避するため、不機嫌にさせないように一生懸命に頑張ります。それが周りからは「いい子」に見えるのです。

しかし子供の実態は、大人の不機嫌によっていい子にさせられているという苦しい状況に置かれているのです。

大人の不機嫌が結果的に子供をいい子にさせているため、大人側は間違った成功体験を積み重ねてしまうことになります。そうして、大人は「次もまた不機嫌を使おう！」と考えてしまうわけです。

子供が、常に大人の顔色をうかがいながら自分の行動を決めているのであれば、判断基準が自分ではなく他者になっている可能性があります。そうすると、自分の気持ちが分からなくなったり主体性が失われたりすることもおきてきます。

だからこそ大人は、目の前の子供がいい子に見えたときは「自分は不機嫌を子供に向けていないだろうか？」と自身に問いかけ、セルフチェックしてほしいのです。大人と子供が気持ちや考えを自由に表現し合い、気持ちの上では対等な関係を築くことが大事だと思います。

参考資料：子どもの傷つきやすいところの守りかた